

別紙様式2 (高)

<p>・昨年度の連携中学校からの入学者は 17 人であったが、今年度は 21 人に増加(23%)した。引き続き魅力ある学校作りを促進するとともに、連携中学校及び近隣の中学校へのPRを強化し、本校への志願者を増やすことが急務である。</p> <p>・ICTの活用については、コロナ禍における臨時休業中等に、課題や動画教材の配信を行った。今年度は、外部コンテンツの活用を含め効果的な活用について検討し、電子黒板やタブレット等の活用を図りたい。</p>		<p>連携型中高一貫教育 連携型中高一貫教育の推進</p>	<p>・明峰中学校及び近隣中学校、地域の関係機関に積極的に情報を発信する。併せて、「地域の中で歩み、地域に貢献できる人」の育成に努める。</p> <p>・少子化に対応した連携スタイルを構築し、広報の充実と志願者確保に努める。</p>	4	
		<p>働き方改革 業務の適正化と組織内部の効率性の向上</p>	<p>・コロナ禍における、ICTの活用や地域協働本部等の地域人材の活用方法の検討を進める。</p> <p>・業務の適正化を図り、組織内の連携を機能させ、効率性・生産性を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。</p>	4	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 地域活動のリーダーとして地域の貢献し社会で活躍できる人財の育成	A	A	キャリア教育を意識した特別活動及び「総合的な学習の時間」への取り組みを強化する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 人間関係能力の育成を図るとともに、コース選択を取り入れた教育活動による幅広い進路希望の実現	A		福祉コースのデュアルシステムによる現場実習、特進コースの進学対応を強化する。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 人とのつながりや地域の絆を大切にしながら、主体的に生きようとする生徒	A		地域の中学校を中心に市教育委員会との連携強化を図る。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	・基礎学力の向上	<p>・漢字テスト(50点満点)で合格点(20点)未満ゼロを目指す。さらに年間平均が30点以上を目標とする。不合格生徒には40点を取れるようになるまで指導する。</p> <p>・読む・書く・聞く・話すの4分野バランスよく指導するが、特にコメント力・応答力・聞き取る力が向上するように質疑応答やリスニングなどを取り入れた授業を展開する。</p>	4	4	漢字や熟語への興味関心を高め、日常生活で適切に用いることができるような指導をすることが課題である。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式2 (高)

	・情報選択能力と問題解決能力の向上	・生徒が主体的に学び合えるよう、ICTを活用し、プレゼンテーションの機会を設け、作品の構成や情報の編集を通して情報選択能力や問題解決能力の向上を図る。	4		「コメント力・応答力・聞き取る力」を向上させるためのICT機器の有効な活用法を検討し、実践する。	
地歴・公民	・分かりやすい授業の展開	・生徒に興味・関心を抱かせるため、プリントや画像・映像・新聞・ICT(タブレット等)を多く活用しながら授業を展開する。	5	4	・教科書以外でも日常的なニュースを取り入れることで、現代における社会の諸課題を考える視点を身に付けることが課題である。	
	・基礎・基本・一般常識の育成	・身近なニュースや問題、社会人として必要とされる知識を育成し、社会人としての資質を身につけさせる。主権者教育にも力を入れていく。	4			
	・メディア・リテラシーの育成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。 ・ICTや視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4			
数 学	・基礎的な知識・技能の習得	・基礎的な計算力を身に付けさせるために、年間4回の小テストの実施、その前後でプリント学習や追試験での指導をする。年間を通し多くの問題を解かせ、基本事項を確実に習得する機会を十分に与える。	5	4	小・中学校レベルの基本的な計算問題の習得	
	・思考力・表現力の育成	・用語の定義を丁寧に説明する。定理や公式の証明を仮定から結論に至るまで示し、論理の重要性や良さに気づけるよう工夫する。	4			既習事項を活用して問題解決する力の育成
	・数学に対する関心や態度の醸成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。ICTや視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。	4			ICTを効果的に取り入れた授業の工夫
理 科	・理科への関心の深化と、科学的思考力の養成	・身近な事物や現象を科学的に捉えられるように、日常生活に関する現象や物質などを取り上げ、ICTや視聴覚教材の効果的な活用を工夫する。 ・実験や観察を多く取り入れ、結果の予測をさせたり、結果を考察させたりすることで科学的な思考力を伸ばす。	4	4	科学的に思考するための基礎学力を定着させる。ICTや視聴覚教材の効果的な活用。	
	・基礎学力の定着	・小テストや課題、レポート等の指導をとおして、一時的な知識の定着だけでなく、継続的な理解の定着を図る。	4			

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

保健体育	・見方や考え方を働かせ、運動の特性や社会生活における健康・安全についての知識及び技能の育成	・運動や健康に関するの適正や自己の適性等に応じて、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方の中から、知識や技能を身につける。	4	4	評価規準の見直し ICT 機器の効果的な活用と環境の整備 体力向上のための運動量の確保と、補助運動や活動内容の見直し。
	・運動や健康について、自他や社会の課題を発見し、他者に伝える力を養う。	・各領域特有の動きや技、課題改善のポイントを発見し、他者に伝える力を身につけるために、話し合い活動や ICT 機器を活用する。	4		
	・健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	・体育では、自己の体力や生活に応じながら、継続的に運動を行うことで、心身の健康の保持増進を図る。 ・保健では、自らの健康管理を適切に管理・改善していく知識技能を身に付ける。	4		
芸術	・芸術を愛好する心情の育成と豊かな情操の醸成	・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身に付けさせる。	4	4	各科目について、基礎知識や技能を身に付ける。また、表現力や想像力等を意識させて幅広い創作活動をしていく。
		・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創作活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。	4		
		・書道については、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。	4		
外国語	・基礎学力の定着	・ICT の活用を含め、基礎学力の定着を図るための指導を工夫する。	4	4	英検合格につながる学習支援。基礎学力の差を考慮した上で、ICT などを効果的に活動できるよう工夫する。
	・英語検定受検の奨励と支援	・英語検定試験の受験を勧め、その指導を通じて英語力の向上を図る。	4		
	・コミュニケーション能力の向上	・英語学習を楽しみながら、コミュニケーション能力の向上を図る。	5		
家庭	・家庭科目に対する生徒の意欲・関心の増進	・身近な事例を取り上げ、ICT や視聴覚教材の効果的な活用・教材の工夫に努め、興味・関心をもって学習できるようにする。	5	4	自分の生活の中の課題を見出し、生活に沿った題材を選定し、意欲的に取り組めるようにする
	・基礎力の定着	・課題等を定期的に提出させ、基礎学力の定着を図る。 ・実験・実習等を行うことにより、科学的・体験的に学び、基礎知識と技術力を身に付けさせる。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式2 (高)

情 報	・情報化社会の理解とモラルの向上	・著作権やコンピュータ犯罪等について身近な事例を取り上げ、興味・関心をもって学習できるようにする。 ・モラル意識を持ってインターネットを活用し、調べ学習を行う。	4	4	情報モラルの大切さを意識させて情報機器を利用させる。又、各種検定試験の合格率をあげることを目指す。	
	・表計算ソフトでの作業能力の習得	・実習時間を十分に確保し、表の作成や関数の理解を通し、実際の中で活用できるようにする。	4			
	・検定試験の合格率アップ	・実習と講義を効率よく併用することにより、基本的学習事項が身に付くようにさせるとともに、情報処理、ビジネス文書等の各種検定試験に合格させるようにする。	4			
商 業	・商業科目に対する生徒の意欲・関心の高揚	・ビジネスの諸活動に必要な文書の作成等を通し、パソコンに対する知識や表現能力を高める。 ・文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を使い、一人一人の技量に応じた技術の習得を図る。	4	4	ビジネスに関する知識や検定で得た技術を実社会で活かせるように、知識と技術を更に高める指導をしていく。	
	・検定試験の合格率アップ	・情報処理検定やビジネス文書検定、電卓検定等において、早い時期から意識付けをして合格を目指す。	4			
福 祉	・福祉に関する興味・関心の向上	・福祉は介護分野だけではないことに気付かせ、幅広く学ばせるとともに、県や市の資料を活用し、地域についても興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。	4	4	新聞記事より、社会問題を提供したり役所の活用の仕方を紹介する。	
	・福祉に関する基本的知識や技術の習得	・単元ごとに章末問題や小テストを実施し、知識や技術の習得を確認する。 ・授業欠席時や知識・技術が合格基準に達しない場合は補講を実施する。	4			決められた時間は、習得出来るようにする。(継続)
	・職業教育として質の高い福祉の担い手を養成	・コロナ禍におけるデュアルシステムの課題を検討し、整備していく。また、より専門的な学習や現場実習を通し、専門職種としての意識を高める。 ・現場及び実生活で活用できるよう、専門スキルを身に付けさせると共に、人との関わりを通し、豊かな心や人間性、社会性を育てる。	4			見学実習でなく基本的なケアは指導者と相談しながら様子を見ながらできるように勧めていく

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式2 (高)

教 務	・基礎学力の定着	・各教科・各学年が一体となり、漢字テスト・数学小テスト・英語小テストを実施するとともに、事前・事後指導を徹底することで、基礎学力の定着と向上を目指す。 ・各種技能審査の受検を促し、合格に向けて支援する。 ・教師間の相互研修を促進し、体験的・探究的な学びを充実させ、生徒が自ら学ぼうとする指導方法の確立を支援する。	4	4	小テストをより効果的に利用し、基礎学力の定着を図る。 タブレットや電子黒板等、ICTの利用を更に促進し、授業力の更なる向上を目指す。 保護者や後援会組織と連携を図り、感染対策をとりながら、工夫してPTA活動を運営していく。
	・教員の校務の実践の支援	・授業支援のため、ICT化を図る。タブレット及び電子黒板の利用を促進する。 ・授業実践のための機器・教材・必要物品の充実・補充を行い、授業力の向上を支援する。	5		
	・PTA・後援会活動の充実化	・各行事の内容を充実させると共に、案内を迅速に行い、参加しやすいような働きかけをする。 ・保護者や後援会組織との連携を密にし、学校行事等において協力し合える体制をつくる。	4		
生徒指導	・基本的な生活習慣と生活態度の確立	・挨拶の励行やスマホ等の使い方など規範意識の向上を図る。 ・SSWやSCを活用し、支援を軸とした生徒指導の充実を図る。	4	4	生徒指導規程の見直し 盗難防止に向けた取組（鍵の施錠や貴重品管理の徹底）
	・問題行動の未然防止、早期発見と早期対応	・校舎内外の巡回指導により、問題行動の未然防止と早期発見に努める。 ケータイ・スマホ・ネットの安全利用についてホームルーム等で繰り返し指導する。	4		
	・交通事故の未然防止と交通マナーの徹底	・バイク点検、登校指導を定期的に行い、安全に対する意識の向上を図る。 ・校内徐行・一時停止など交通ルールの遵守・徹底を図る。	4		
進路指導	・基礎学力の向上と学習の習慣化	・放課後のドリル学習を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験を活用し適正な進路選択をする。資格試験を意欲的に取り入れスキルを上げる。	4	4	資格試験の取得について、生徒だけでなく保護者にも、資格取得の利点について周知し、積極的な取得を促す。 各教科担当教員間で、受験に関する情報共有を図り、生徒の学習指導、進路指導に生かす。
	・進路希望の実現	・個別指導・進路相談を通して、それぞれの生徒に合った進路を実現させる。 ・公務員試験対策の研究、国公立大進学支援の研究を行い、指導に生かす。 ・職場見学やインターンシップなどの体験的な学習を行う。また、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

	<ul style="list-style-type: none"> ・早期離職の防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者に対し、適切な情報や資料を提供するとともに、職員間での進路情報を共有する。 ・「進路のてびき」の発行や外部機関紙の提供をしながら、個々の生徒に応じた指導を行う。 ・応募前職場見学を複数回実施し、生徒に適した職場への就職を斡旋する。 	5		
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・部加入率と継続率を高めるため、教員同士が協力し部活動の指導にあたる。 ・校内放送や本校のホームページを有効に活用し、広報活動に努める。 	4	4	<p>生徒数減少に伴う部員数確保や活動内容の充実。学校の変化に対応した柔軟で工夫のある行事運営。挑戦の機会、資質能力向上の機会としての自主的な生徒会活動を支援。探究学習の軸として3年間の学びを支える未来創生学の運用。体育後援会と連携し現状に見合った運営を検討。キャリアの視点で学びをつなげキャリアパスポートを生かす。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の方法にとらわれず、全校生徒が意欲的に取り組める行事運営を工夫する。 ・様々な生徒が活躍できる場を多様に設ける。 	5		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に積極的に関わり、自主的に活動できるような働きかけを行う。 ・生徒が自ら挑戦できる機会を増やし、リーダーとしての資質を高める。 	5		
	<ul style="list-style-type: none"> ・未来創生学の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施の目的を生徒と共有し、生徒自身が自らの成長を認識できるよう働きかける。 ・生徒の実態にあわせて教材や授業内容を見直しつつ実践し、本校に適したカリキュラム形成を目指す。 	4		
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育後援会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育後援会と連携を図り、学校行事等において協力しあえる体制を整える。 	4		
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動を整理し、キャリア教育を推進する。 	3		
保健厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・校内環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃をていねいに行うことにより、校内の環境美化を意識させる。 ・安全管理のため毎月安全点検を行い、修繕が必要な箇所には迅速に対処する。 	4	4	<p>大掃除の回数、清掃分担区域の見直しが必要</p> <p>防災避難訓練は、更に地域との連携を発展させる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康観や安全能力を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保健だより」や保健関係資料等を発行及び掲示し、心身の健康の保持増進や感染症予防等の情報発信を定期的に行う。また、地域と連携して防災避難訓練を実施し、安全能力の育成を図る。 	4		

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

第 1 学年	・ 基本的生活習慣の確立	・遅刻、早退、欠席をしないよう継続的な指導をする。 ・あいさつ、返事、言葉遣い、服装、頭髪をきちんと整える。	5	4	基本的生活習慣の継続的な指導をする。 進路意識の啓発と基礎学力の向上に努める。 生徒だけでなく、保護者も含め、ICT 機器(タブレット等)のさらなる有効活用を推進する。
	・ 学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行う。 ・放課後学習を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・宿題・課題は必ず提出させる。	4		
	・ 進路意識の高揚	・ LHR を活用し進路意識の啓発を行う。	5		
	・ 学校生活の活性化と社会性の定着	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。また、自己の役割を自覚させるとともに集団における健全な人間関係を築かせ、社会性が身に付くようにする。	4		
	・ ICT活用の活性化	・電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム (Classi) の有効活用を努める。	5		
	・ 働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		
第 2 学年	・ 基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的な指導をする。 ・礼儀作法(言葉遣い、あいさつ、返事、服装等)をきちんとさせる。	4	4	遅刻、欠席の多い生徒への指導。
	・ 学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行い、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・提出物完成度向上及び提出徹底を図る。	4		就職試験等に向けた基礎学力の定着。
	・ 進路意識の高揚	・進路講話やインターンシップを通じて、進路意識の啓発を行う。	5		早い段階での意識啓発。
	・ 学校生活の活性化と問題行動への対策	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。 ・日頃より生徒とのコミュニケーションを深め、問題行動の未然防止に努める。	5		生徒との絆を深めるコミュニケーション。
	・ ICT活用の活性化	・電子黒板やタブレット、教育用プラットフォーム (Classi) の有効活用を努める。	5		教員間での研修及び情報共有。
	・ 働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。	4		教員間のコミュニケーション。

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである

別紙様式 2 (高)

第3学年	・ 基本的な生活習慣確立と社会性の向上	・ 遅刻、早退、欠席のないよう継続的に指導する。 ・ 言葉遣い、礼法、服装、髪型をきちんとさせる。	4	4	・ 基本的な生活習慣の継続的な指導。 ・ 早期に進路意識を高める。 ・ 自己PRができるコミュニケーション能力の育成。
	・ 学習の習慣化、基礎学力の向上	・ 授業に臨む姿勢の指導と課題提出を徹底させる。 ・ OT、放課後の継続的学習を行う。成績不振者への個別指導を行う。	4		
	・ 学校行事等への積極的参加	・ 学校行事等の目的・意味を十分理解させ、3年生のリーダーシップを発揮させる。	4		
	・ 適切な進路選択とその実現	・ 生徒・保護者との連絡・相談を密にし、適切な進路の選択を図る。 ・ 学年全体で進路指導にあたり、指導と事務処理に遺漏の無いようにする。	5		
	・ ICTの活用	・ ミライタッチ、教育用プラットフォーム (Classi) を有効活用する。	4		
	・ 働き方改革	・ 業務の効率化と平準化を図る。	4		
連携型中高一貫教育	・ 交流事業の充実	・ ふれあいキャンパス等の交流事業やスポット的授業、相互授業参観、部活動の連携を通して、生徒相互や教師と生徒の積極的な交流を推進する。	5	4	交流事業の精選や教科における連携について検討する。
	・ 地域貢献活動の充実	・ 連携型の中高一貫教育を通して、「地域の中で歩み、地域に貢献できる生徒」を育成する。	4		市内中学校との緩やかな連携も含め、中高一貫教育の在り方を見直す。
	・ 中高一貫教育の推進	・ 少子化に対応した連携スタイルの構築し、効果的な広報を通して志願者の確保を図る。	4		中学生や保護者のニーズを捉え、効果的な広報活動につなげる。

※ 評価基準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである
1：ほとんどが不十分な達成レベルである

※評価規準： 5：極めて高い達成レベルである 4：高い達成レベルである 3：標準的な達成レベルである 2：やや不十分な達成レベルである 1：ほとんどが不十分な達成レベルである